

令和 4 年度 田原中学校 学校評価書【結果】

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間の尊厳を重んじる教育を基盤に、生きる力を育むことを目指し、未来を切り拓いていける生徒を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

① 自ら学び実力のある生徒

（基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力を身につけるとともに、目標や、自ら学ぶ意欲をもった生徒を育成する）

② 心豊かで思いやりのある生徒

（自信や自己有用感、規範意識、思いやりをもった心豊かな生徒を育成する）

③ 健康でたくましい生徒

（生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力をもった生徒を育成する）

(3) 生徒指標「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・学校は、子どもたちにとって、「安心できる居場所」であること
- ・学校は、教職員にとって、「生き甲斐や遣り甲斐を感じる場所」であること
- ・学校は、保護者・地域の方々から、「信頼される場所」であること

上記のような学校を目指し、心のふれ合う豊かな人間関係に支えられた温かみのある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態や学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。
- (2) 学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、さらには、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の定着・充実を図ることにより、生徒一人ひとりが自ら学ぼうとする意欲の育成に努める。
- (3) 生徒一人ひとりの共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係を核とする学級集団づくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。
- (4) 道徳の時間や心の教育の充実を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や生徒が主体的に取り組む体験活動を通して、生徒の内面に根ざした心を育むことに努める。
- (5) 家庭や地域との連携を図りながら、健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の充実を図り、生徒一人ひとりが将来にわたって心身ともに健康に生活していける指導に努める。
- (6) 教育活動全体を通して、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの社会的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (7) 学校内の連携並びに家庭や関係機関との連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と長期的な視点に立った支援に努める。
- (8) 田原地域学校園内の連携・強化を図りながら小中一貫教育を推進し、学校園教育ビジョンが掲げる生徒の育成に努める。
- (9) 愛校心と互助の精神に支えられた望ましい人間関係や教育環境を整備し、良き伝統や地域の特性、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。
- (10) 学校・家庭・地域社会との連携を深め、共に歩む学校づくりを推進し、風通しのよい信頼される学校づくりに努める。
- (11) 新たな教育課題等への対応と、業務時間の適正化や業務内容の精選に努める。
- (12) 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、ICT等を効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の発展など、急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を身につけさせる。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、中学校新学習指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、県教育委員会の方針・宇都宮市学校教育スタンダード等の示すところに従い、公教育の自覚のもとに全職員の理解と協力を努め本校教育課程を編成する。
- (2) 教育課程の編成に当たっては、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力をもつ生徒の育成を目指し、学校教育目標を達成するよう次の事項に留意する。
- (3) 道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことを基本とし、道徳教育充実のため、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図るよう留意する。

- (4) 体育・健康の指導は、学校教育全体を通じて適切に行い、特に体力の向上及び心身の健康の保持増進については、保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分指導できるよう留意する。
- (5) 本年度 宇都宮市学校教育スタンダードをもとに、その目標達成のための教育課程を編成する。
- (6) 小中9年間の一貫した教育課程編成のため、具体的に次の点において連携を図り教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】		
「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」 ○自分のよさに気づき、自信を持たせる指導の推進と強化 ・活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる指導の推進と強化 ・自分の力でやり遂げる体験や場の設定の推進 ・生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導の推進と強化 ・互いに認め合う集団づくりの推進と強化	「基礎・基本を確実に習得させ、自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実」 ○自主的・主体的な学習態度育成の推進 ・学びに向かう集団づくりの推進と強化 ・わかる授業を展開する工夫の推進と強化 ・個に応じた指導実践の推進 ○小中連携による家庭学習の習慣化の推進と強化	「未来を生き抜く力を養う指導の強化」 ・情報活用能力を育成する教育の充実 ○郷土への愛情を育む学習の推進 ・英語教育・国際理解教育の充実
【学 習 指 導】 「基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む」 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・学力調査の活用 ・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成 ・宮・未来キャリア教育の充実		
【児 童 生 徒 指 導】 「心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する」 ○不登校を生まない指導・支援の充実 ・宮っ子心の教育の推進 ・認め励ます教育の一層の推進 ○体験活動・読書活動の充実		
【健康（体力・保健・食・安全）】 「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する」 ・元気アップ教育の推進 ○運動に親しもうとする態度や能力の育成 ・健康を管理する能力の育成 ・望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成 ・危険予測・回避能力の育成		

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

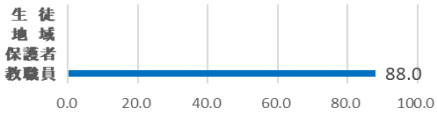
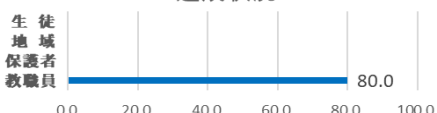
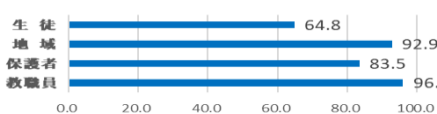
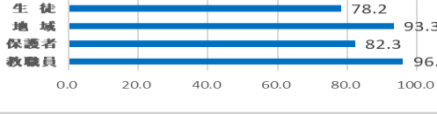
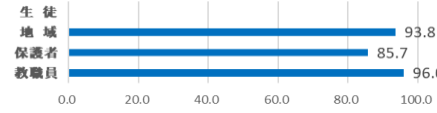
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 学習の「めあて」を明確に示し、生徒が自主的・主体的に学習に取り組む環境を整えるとともに「振り返り」を必ず行う。 ② 「主体的に取り組む態度」の資質・能力の育成を意識した授業展開を工夫し、学びに向かう力の向上を図る。	B	達成状況 <table><thead><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒</td><td>94.4</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>86.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr></tbody></table> 【次年度の方針】 ・継続指導で学びに向かう力の向上を図る。	対象	達成率	生徒	94.4	地域保護者	86.6	教職員	100.0
対象	達成率											
生徒	94.4											
地域保護者	86.6											
教職員	100.0											

目 指 す 生 徒 の 姿	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。 ② 朝の会や帰りの会等で、生徒の善行を賞賛する機会を増やしていく。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 教職員は、日課表を基に、生徒にチャイムや学校のきまりを守って生活することの大切さを理解させる。 ② 言語環境を含め、安全・安心な環境整備に努める。 ③ 生徒自身がお互いに注意し合えるような生活環境づくりに努める。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%	① あいさつ重点目標の明確化を図る。 ② 授業や学校生活の中で、その場に応じたあいさつの習慣化を図る。 ③ 生徒会・委員会活動での啓発を推進し、礼儀正しく、場に応じた言動がとれる生徒を育成していく。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① すべての学校教育の中で、発達段階に応じたキャリア教育を進めていき、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。 ② 体験活動が生徒一人一人のキャリア形成の一助になるよう、それぞれの目標や課題に沿った活動になるよう支援指導を行う。 ③ 田原中版「キャリア教育の目標」を教室に掲示し、学んだこと、経験したことが、どの目標につながっていくのかが具体的に分かるようにする。	A 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取り組みを強化し、継続指導する。 ・教職員が「キャリア教育の目標」を共有し、重点化しながら、生徒の社会形成力の育成を図る。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%	健康増進に関して ① 昼休み、校庭や体育館において身体を動かす呼びかけをする。 ② 放課後、積極的に部活動に参加するよう促す。 ③ 「姿勢の日」活動による啓発指導 ④ 感染症予防における啓発指導 食育に関して ① 家庭科と連携した栄養指導の実施 ② 給食委員会によるマナー指導 ③ 「お弁当の日」を活用した栄養指導 ④ 小・中連携した給食指導の実践 ⑤ 朝食の欠食を減らすための取組 安全教育に関して ① 避難訓練等に課題意識を持って積極的に参加させる。 ② 日頃から、危険箇所について意識させ、身を守ることを第一に、危険管理能力を育成する。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 地域ボランティアに積極的に参加させるとともに、中学生が活躍できる場の開拓をする。 ② 2年生で実施する「宮つ子チャレンジ(社会体験活動)」を柱に、キャリア教育を学校教育の多くの場面で充実させていく。 ③ 進路の実現に向けて、ガイダンス機能を充実させると共に、個に応じた指導の工夫を進める。	A 【達成状況】 A 5 同様 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。 ・地域とのかかわりの強化。 ・キャリア教育や進路指導の充実。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 生徒のコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語の授業づくりを工夫する。 ② 校外活動等を利用し、積極的に外国人とのコミュニケーションを図る。	B 達成状況 <table><tr><td>生徒</td><td>89.4</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>88.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>88.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。	生徒	89.4	地域保護者	88.0	教職員	88.0
生徒	89.4							
地域保護者	88.0							
教職員	88.0							
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 社会科の教科指導の中で、地理や歴史において宇都宮市と比較させ、理解を深める機会を増やす。 ② 食育及び委員会活動における地産地消や郷土の食文化の紹介等の取組みを通して、宇都宮市の良さに触れさせる機会を増やす。 ③ 「宇都宮学」の授業を通して宇都宮の歴史、文化、まちづくり等を各学年で段階的に学び知識や理解を深める。	B 達成状況 <table><tr><td>生徒</td><td>80.4</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>63.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>72.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。	生徒	80.4	地域保護者	63.8	教職員	72.0
生徒	80.4							
地域保護者	63.8							
教職員	72.0							
A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 読書活動やNIE活動の積極的な推進を図り、図書資料等を学習に活用する力を高める。 ② 1人1台端末を利用して、各授業で積極的にICT機器を活用していく。 ③ 教師が積極的にICT活用に対する研修を重ね、1人1台端末や図書の利用をバランスよく取り入れ、各授業での活用力を高めていく。	B 達成状況 <table><tr><td>生徒</td><td>86.6</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>76.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>84.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。	生徒	86.6	地域保護者	76.3	教職員	84.0
生徒	86.6							
地域保護者	76.3							
教職員	84.0							
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 地域学校園全体で連携を図り、効果的な道德教育を行い、それを地域学校園で実践することで、地域の高齢者に対する感謝やいたわりの気持ちを高める。 ② 地域協議会主催の特別養護施設訪問事業への交流のあり方を考えながら、心の教育を図っていく。 ③ 総合的な学習での「福祉」に関する項目の見直しを図り、生徒の知識や意識のさらなる向上を図る。	B 【達成状況】A 2 同様 【次年度の方針】 ・左記の取組を強化しながら継続して行う。 ・地域学校園の連携強化 ・地域協議会との連携強化						
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 生徒会活動を中心にSDGsの取組を充実させ、「持続可能な社会」への意識を高める。 ② 各教科指導の中で、持続可能な社会についての関連等に触れると共に、実現に向けた工夫について考えさせる機会を増やす。	A 達成状況 <table><tr><td>生徒</td><td>70.9</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>68.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>68.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・SDGsに関する活動の実践	生徒	70.9	地域保護者	68.0	教職員	68.0
生徒	70.9							
地域保護者	68.0							
教職員	68.0							
B 1 生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 毎週水曜日を「家庭学習の日」とし部活動なしで一斉下校させる。 ② 生徒が主体的に学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫する。 ③ 学年に応じた自主学習を推奨し、家庭学習の成果の点検と評価の仕方の工夫をする。	A 達成状況 <table><tr><td>生徒</td><td>76.0</td></tr><tr><td>地域保護者</td><td>61.4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>60.0</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・保護者と連携した家庭学習の強化	生徒	76.0	地域保護者	61.4	教職員	60.0
生徒	76.0							
地域保護者	61.4							
教職員	60.0							

目指す学校の姿	B5 生徒は、学習活動において、積極的に1人1台端末を活用している。 【数値指標】(R3新規) 生徒の肯定的回答 80%	① 1人1台端末の使用において、「約束やきまり」を理解させながら、各授業での活用力を高めていく。 ② 家庭学習においても、持ち帰り時には、AIドリルや学びポケット、1人1台端末を利用した課題等に取り組むよう活用を図る。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 教育相談部会や職員研修を通して、教職員が情報共有しながら、適切な支援を行う。 ② 市教育センター等との連携を図りながら、実態に応じた適切な指導の情報を得たり、指導を仰いだりし、教職員の指導力を高める。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 教職員肯定的回答 95%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。 ② 「いじめ防止アンケート」等の教育相談機能により、早期発見に努めると同時に、いじめの根絶をめざし、組織としての的確な対応を行う。 ③ 学校だよりやホームページを利用し「いじめ防止」に対する啓発を図る。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・根絶、防止、早期発見に向けての組織的な対応を図る。 ・地域や家庭との連携と啓発を図る。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① SC・MSとの連携を図りながら、家庭との連絡を密にしていく。 ② 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。 ③ 「Q-U」等のアンケート調査結果や毎日のスタンダードダイアリー指導を通して、生徒の一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導に努める。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。 ・生徒一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導の充実を図る。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。 ② 随時、対象生徒の課題等を全職員で共有しながら、各関係機関等との連携を図り、適切な支援を行う。	B 【達成状況】A13同様 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 本校の特色ある取組みの一つであるGCR活動で、生徒に活動の検証をさせながら自主的・主体的に取り組むようにする。 ② 保護者との連携を深め、明るく活気ある学校づくりを目指すとともに、学校行事や生徒会行事における計画・運営において、リーダーを育成し、明るく生き生きと実践できるようにする。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 授業の中で、「めあて」を黒板に書くことや、「振り返り」を必ず行い、何を学習したのかを、生徒に確認させる。 ② 全教職員により、計画的に研究授業・研究協議を実施し、指導力の向上に努める。 ③ 1人1台端末の活用による授業の導入・内容・振り返りの工夫を図る。	B 達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 教育目標及び学校経営の方針を全職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように業務を進める。 ② 各部会を核に、関係職員が情報を共有しながらＳＣやＭＳ等の専門性を活かし連携を図る。 ③ 校務分掌の明確化と系統化を図り、教職員の連携協力を強化する。	B 達成状況  【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① 教職員一人一人が勤務時間を管理し、現状を数値で確認することにより業務内容の精選や効率化を目指す。 ② 指導のねらいを常に意識しながら、準備等の分担や精選を行うなど、業務の効率化に努める。	B 達成状況  【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 地域学校園組織の見直しを図りながら、新しい小中一貫教育や地域連携のあり方を考え、生徒会活動等を通して実践していく。 ② 田原地域学校園（他２つの小学校）において、運営会議を定期的に関き、小・中の連携を図る。 ③ あいさつ運動等、生徒会主催の小中交流を充実させ、生徒の達成感を高めていく。	A 達成状況  【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。 ・生徒会主催の小中交流の充実を図る。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 平均 85%	① 田原学校園地域協議会（他２つの小学校）において、運営会議等を定期的に関き、教育講演会や音楽のつどい、あいさつ標語コンクールを実施する。 ② 地元消防団や特別養護施設（老人ホーム）等との連携を取り、地域の教育力を生かしながら、さらなる教育活動の展開を図る。	B 達成状況  【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 平均 85%	① ＰＴＡや地域協議会と連携し、学校教育活動を通して、交流を深め、支援・協力を得る。 ② 地域社会と連携し、積極的にボランティア活動や行事への参加・協力をする。	B 【達成状況】 A 2 2 同様 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 平均 90%	① 学校における施設・用具等の整理整頓及び計画的な修繕と、委員会を中心としたＧＣＲ活動のＣ（清掃）にも力を入れる。 ② ＰＴＡや地域協議会の協力のもと、花壇や学校農園の充実を図る。 ③ 学校施設開放や避難所開設時の環境づくりの推進を図る。	B 達成状況  【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
A 25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 平均 80%	① 担当を中心に、ＩＣＴ機器の一層の活用を呼びかけると共に、管理及び活用状況の把握に努め、機器の充実に努める。 ② 目的に応じたＩＣＴ機器や図書の購入計画を実践し、学習に必要な環境を整える。	B 【達成状況】 A 1 0 同様 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。

本校の特色・課題等	B2 生徒は、相手と目を合わせてあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	☆生徒会が中心となり、年度初めにGCR活動を全校生徒にPRする。 ① GCR活動のG：(あいさつ) ・校内あいさつ運動の推進 ・地域学校園あいさつ運動の推進 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・ビデオやTVを利用し、啓発の仕方を工夫する。 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、重点目標の明確化を図り、活動の見直し・改善を図る。	B	達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	B3 わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	☆生徒会が中心となり、年度初めにGCR活動を全校生徒にPRする。 ① GCR活動のC（清掃） ・複数の委員会が連携協力した活動 ・全教職員による率先垂範 ・時間で始め時間で終わる指導の徹底 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・無言清掃、清掃コンクール等の実施 ・委員会朝会での啓発活動の実施 ・清掃の仕方VTRによる啓発 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	B	達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を継続して行う。
	B4 朝の読書の時間のみならず日常的に読書をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	☆生徒会が中心となり、年度初めにGCR活動を全校生徒にPRする。 ① GCR活動のR（読書） ・朝の読書（10分間）実施 ・担当教員（担任）による率先垂範 ・「日常的な読書」の啓発 ② 生徒会・委員会活動での啓発 ・多読コンクール等の実施 ・給食委員会とのコラボ企画等を通じた啓発活動の実施 ・図書室の配架や学級文庫の充実 ③ GCR活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。	A	達成状況 【次年度の方針】 ・左記の取組を強化しながら継続して行う。 ・生徒会活動の充実 ・学校図書館司書と連携した取組 ・日常的な読書への啓発活動の充実

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、評価書文頭の1から4の目標・理念・方針のもと、

学習指導では、「基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む」

生徒指導では、「心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する」

健康指導では、「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する」

というテーマを掲げて取り組んできた。

○小中一貫・地域学校園では、『自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成』を教育ビジョンとして取り組んできた。

【令和3年度評価との比較において】

・生徒の肯定的評価

21項目中、肯定的評価がアップしたのは、9項目であった。肯定的評価がダウンした項目のうち、小中一貫・地域学校園の取組では、約10%ダウンしている。次年度は、生徒主体による計画・実践を図り、学校園内の交流の活性化を図りたい。

・地域住民の肯定的評価

9項目中、4項目がアップしている。どの項目も90%以上の肯定的回答を得ている。

・保護者の肯定的評価

20項目中、15項目がアップしている。10%以上アップした項目が3項目あり、特にB3「生徒は清掃活動に積極的に取り組んでいる。」では、21.2%アップしている。教職員の評価もB3に関しては、約18%アップしているため、生徒の清掃への意識や取り組みはよい方向に変容しているといえる。

・教職員の肯定的評価

25項目中、13項目がアップしている。A17「学校の活気や明るさ」、A19「チームとしての協力」では、10%以上アップしている。引き続き、チームとしての組織づくりを強化し、明るく活気ある学校づくりをしていきたい。

【市平均との比較】

・市平均を上回っている項目が生徒で6項目、地域で4項目、保護者で4項目、教職員で7項目であり、ほとんどが市と同等かやや下回る状況であった。

7 学校関係者評価

A項目、B項目の状況

- ・生徒の肯定的評価は、16項目中8項目が90%を超えている。特にA4「時と場に応じたあいさつ」では、98.3%という非常に高い値を示している。反面、A21「小中一貫・地域学校園」で64.8%、B4「日常的な読書」では58.1%と低い値を示している。このB4については、保護者が45.0%、教職員が72.0%という値である。
- ・地域住民については、すべてにおいて90%以上の評価を得られた。
- ・保護者については、A2、11「思いやり」、A3「きまりやマナー」、A4「あいさつ」、A6「健康。安全」の4項目では、90%以上の評価を得ており、それ以外の項目でもほぼ70%以上の評価を得ている。A9「宇都宮の良さ」では、63.8%と低い値である。B項目では、B1「主体的な家庭学習」では61.4%とやや低い値が出ている。このB1については、生徒が76.0%、教職員が60.0%という値である。
- ・教職員については、9項目が90%以上の評価である。A項目では、A5、7「粘り強い取り組み」が76.0%、A9「宇都宮の良さ」が72.0%、A12「持続可能な社会」が68.0%で80%に至っていない。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・A1～4、6の授業や学校生活上の基本的な項目に関しては、4者ともにほとんどが90%以上の評価を得ている。引き続き、具体的な取り組みを実践しながら、生徒の育成を図っていききたい。
 - ・肯定的割合が70%の項目は80%を80%の項目は90%を目指して、取り組みを強化していききたい。
特にA9「宇都宮の良さ」については、生徒80.4%、保護者63.8%、教職員72.0%という値であるため、宇都宮学の取り組みを具現化し、計画的な授業や体験を通じた実践をしていきたい。そのためにも地域との連携を図りながら、身近な田原地区や河内地区を学習し、まずは地域の歴史や文化を学ぶことで地域の良さを体感していくことが重要である。
 - ・A12「持続可能な社会」については、今年度当初に生徒会からSDGsの取組に関する説明を実施し、各委員会ごとに啓発や実践を行ってきた。生徒の中には、まだ、「持続可能な社会」という意味と取組のイメージが結びついていない生徒がいると思われる。来年度もSDGsの取組を生徒会活動の中で具現化し、生徒主体の活動を通して、「持続可能な社会」への意識の高揚を図りたい。
- A21「小中一貫・地域学校園」の取組では、生徒の主体性を育てながら、生徒会を中心に小中交流の機会を増やしていきたい。生徒が活動している実感や自己肯定感が持てるような取組をさらに進めていきたい。また、今年度は学校園教育ビジョンの見直しを念頭に置いて取り組んできた。令和5年度から新教育ビジョンで計画立案し、実践していく。
- ・B1「主体的な家庭学習」では、生徒の学びに向かう力の育成を図りながら、学校と家庭が連携して主体的な家庭学習への取り組み強化を図っていく必要がある。
 - ・B4「日常的な読書」では、図書館司書との連携を図り、読書の大切さや楽しさを伝える活動を通して、日常的に本に親しむ生徒が増えるよう、引き続き具体策の具現化を図って取り組んでいきたい。